

交通機関の乗継を考慮した幹線鉄道の 需要予測モデル

柴田宗典 奥田大樹 鈴木崇正

幹線旅客交通には複数の幹線交通機関を組み合わせることで利用できる経路（「混合経路」と称する）が存在するが、既存の需要予測手法ではこの経路を適切に考慮できない問題があった。そこで本研究では、第4回純流動調査の個票データを用いて

拡張型ロジットモデルによる経路選択モデルを構築し、混合経路の存在を考慮できる需要予測モデルを開発した。パラメータに関する特性を分析した結果、構築したモデルにより「経路の重複率が各経路の選択確率に与える影響」を適切に推定できていることを確認した。また構築した経路選択モデルを用いた需要シミュレーション手法を検討し、具体的な新線開業を想定したケーススタディを実施した。その結果、開発した需要シミュレーション手法が、混合経路の存在を想定した幹線鉄道の需要予測へ適用可能であることが示された。

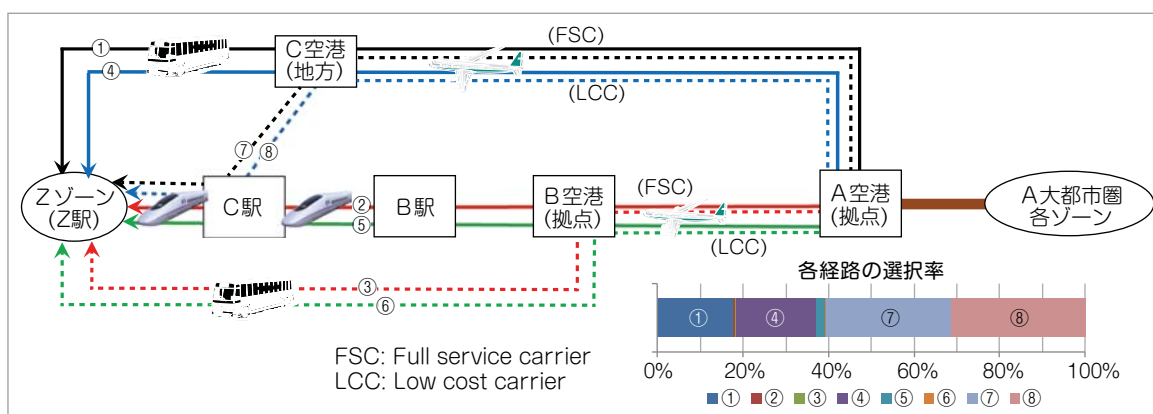


図 経路選択率の推計例 (A大都市圏→Zゾーン)